

ふじみ野未来政策研究所（スクラム IN ふじみ野）

イクメンから、イキメンへ ～ファザーリング・ジャパンの取組から～



NPO法人ファザーリング・ジャパン
ファウンダー／副代表 安藤 哲也

2013年12月12日 ふじみ野市役所

FJファウンダー・安藤プロフィール

安藤哲也(あんどう・てつや)

▶ 1962年生まれ。現在、16歳(女)、13歳(男)、5歳(男)の父親。

大学卒業後、出版やIT系企業で働く。

06年11月、会社員の傍ら、父親の子育て支援・自立支援事業を展開するNPO法人ファザーリング・ジャパン(FJ)を立ち上げ、5年間代表を務め、現在副代表。社会的養護の拡充と児童虐待の根絶をめざす**NPO法人タイガーマスク基金**の代表も兼務。

▶ 地域では、保育園、学童クラブの父母会長、小学校のPTA会長

▶ を務めるほか2003年より、**パパ's絵本プロジェクト**のメンバーとして、

▶ 全国の図書館・保育園・自治体等にて、パパの出張絵本おはなし会を開催中。

▶ 著書に『パパの極意～仕事も育児も楽しむ生き方』(NHK出版)、『絵本であそぼ!』(小学館)、翻訳絵本に『ぼくとおとうさんのテッド』(文溪堂)などがある。

▶ 主な委嘱委員・・・ **厚生労働省イクメンプロジェクト推進チーム**座長/内閣府・ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム/**内閣府・男女共同参画推進連携会議**/国土交通省観光庁・休暇改革国民会議/東京都・次世代育成支援検討委員会/東京都・子育て応援とうきょう会議/文部科学省・父と子の愛着形成プログラム研究委員会/厚生労働省・男性の仕事と育児の両立意識啓発事業委員会/内閣府・少子化社会対策に関する先進的取組事例調査研究会/内閣府・認定こども園制度の在り方に関する検討会/松戸市・男女共同参画推進協議会/埼玉県地域家庭教育推進協議会/電通ジセダイ育成委員会/にっぽん子育て応援団団長/自治労・男女平等推進委員会/**文京区新たな公共の担い手推進プロジェクト委員**



特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン(FJ)概要

Fathering
Japan



「Fathering＝父親であることを楽しもう」という考えを持つ若い世代の父親を支援。働き方の見直し(WLB)や企業の意識改革、**地域社会の再生**など父親育児の環境づくりと次世代育成を目標に、セミナー、スクール、検定、旅行、出版などさまざまな父親支援事業を展開。また父子家庭支援や男性の育休取得推進など政策提言としての活動も行う。 www.fathering.jp

★設立：2006年11月
個人会員：400名(パパ95%)
法人会員：20社
サポーター会員：7,800名
(2013年9月現在)



ファザーリング・ジャパン（FJ）の事業

- ・セミナー、ワークショップ、フォーラムの開催
- ・ファザーリング・スクール(父親学校)の開講(09年10月～)
- ・個人、企業の意識(実態)調査、子育てパパ力検定の主催
- ・父親コミュニティ、ネットワーク形成、父子キャンプの開催
- ・次世代パパ育成 FJS活動、啓発授業@大学・高校
- ・企業提携(研修、事業アライアンス、コンサルティング)
- ・父子家庭支援(フレンチトースト基金)
- ・産後うつ予防(ペンギンパパプロジェクト)
- ・男性の育休取得推進(さんきゅーパパプロジェクト)
- ・中高年男性のエンパワーメント(イクジイプロジェクト)
- ・児童養護施設の成長&自立支援(タイガーマスク基金)
- ・東日本大震災支援活動(パパエイド募金)

FJセミナー



F J ワークショップ



F J パパごはん教室



F J ツアー (父子旅行)



父親支援をめぐるネットワークの相關図

国・自治体

- ・男女共同参画
- ・子育て支援
- ・労働政策
- ・社会教育
- ・生涯学習

各NPO

- ・子育て支援
- ・父親支援
- ・母親支援
- ・ひとり親家庭支援
- ・中高年のエンパワーメント



ファザーリング
II
父親であることを楽しむこと
パパが育児参加できる
環境作りの強化

企業

- ・人事部
- ・労働組合
- ・ダイバーシティ推進

学校・地域

- ・PTA活動
- ・キャリア支援
- ・自治会活動

**期待される
成果**

男女共同参画社会の実現・
ワークライフバランスの推進

地域の活性化・
持続可能な共生社会

人材の獲得と有効活用・
企業の生産性向上

児童虐待・産後うつ・
離婚・DVなどの予防

少子化の歯止め・
女性就業率の向上

...etc

少子化を加速させる

日本の女性が子どもを産むことへの4大不安

1位 仕事と育児の両立ができるかどうか？

2位 いまの社会環境では安心して子育てできない

3位 自分の時間がなくなってしまう

4位 「母親」へのプレッシャー＞自分の意識

※30代の母親が第2子を産まない理由の多くは
「夫の非協力」(厚労省調べ)

妻の出生意欲を決めるのは、ズバリ！

「夫婦関係満足度」と「夫への信頼度」



イクメンに熱い注目が！



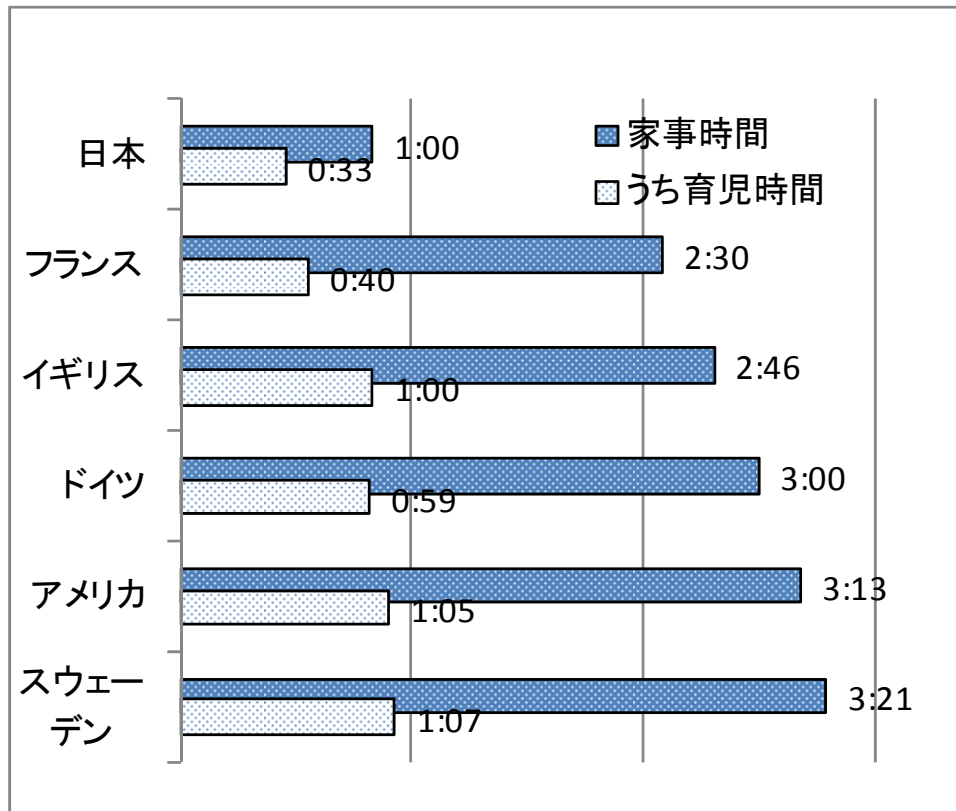
男性の子育ての悩み・課題

- ▶ ①仕事が忙しくて育児時間が取れない
 - ▶ (育児家事時間＝30分/日、育休取得＝1.72%、有休消化率＝50%未満)
 - ▶ ②子どもとどう向き合っているかわからない
 - ▶ ③子どもが生まれてから、夫婦関係が悪化した
 - ▶ ④経済力がなく育児が不安
-



6歳未満の子のいる

男性の家事・育児時間



出所：各国資料より。日本、アメリカは
2006年、それ以外は2004年

育児休業の取得

2011年度(2005年度)

女性 87.8%(72.3%)

男性 2.63%(0.50%)

出所：厚生労働省「雇用均等基本調査」

子育て経験のある20-49歳
男性を対象にした調査では

日本 4.8%

アメリカ 20.2%

フランス 23.5%

スウェーデン 74.0%

出所：内閣府「少子化社会に関する国際
意識調査」(2010)

ファザーリング・スクール (父親学校)



＜カリキュラム＞
パパの育児参加と子どもの成長
ワークライフバランス
絵本・あそび
パパごはんの作り方(料理教室)
産後ケア
ママの心のつかみ方(パートナーシップ)
ファイナンシャル(子育てとお金の話)
育児と社会問題
地域・コミュニティづくり
ファザーリングの極意
パパ・ブランディング
修了式
放課後(交流会)

全国でパパスクール（父親学級）が活発化



パパスクール開催自治体 実績

- 山形県 •さいたま市 •千葉県 •船橋市 •流山市
 - 東京都目黒区 •北区 •江戸川区 •台東区
 - 墨田区 •足立区 •荒川区 •文京区 •江東区
 - 西東京市 •武蔵村山市 •立川市 •稲城市
-
- 神奈川県 •川崎市 •中原区 •幸区 •麻生区
 - 横浜市 •港北区 •港南区 •金沢区 •保土ヶ谷区 •都筑区 •旭区 •神奈川区
 - 瀬谷区 •逗子市 •藤沢市 •豊橋市 •豊田市 •津市 •伊勢市 •四日市
 - 大阪市中央区 •摂津市 •北九州市 •大分県 •沖縄県

父親が育児に関わるメリット

- ・母親の育児ストレスが軽減される。
 - ・夫婦関係(パートナーシップ)が強まる。
 - ・子どもの成長にいい。言葉や社会性が早く身につく。子どものよきモデルとなる。
 - ・自活力がつく。地域に友達も増え、定年後～老後も安心。
 - ・仕事で有効な能力も身につく。アイデアが仕事に活きる。
 - ・父親自身の世界が広がり、人生が楽しくなる。
-



笑う父親になるための、 ファザーリングの極意6カ条

子どもができたらOS(父親ソフト)を入れ替えよう

義務から権利へ。客体から主体へ。さらば「家族サービス」

男の育児は、質より量。イトコドリ育児をやめよう

子育てパパは仕事もデキル。育児で備わる3つの能力

パートナーシップの構築～妻の人生は、夫のものではない

地域活動を通じて、シチズンシップを獲得しよう

パパ友の作り方

①産前は⇒産院、両親学級などで

②産後は⇒公園、児童館、地域センターなどで

③幼児期・就学時⇒父母会やPTA、スポーツクラブに参画

子どもは地域へのパスポート(入場券)

寝に帰るだけの地域⇒ **My Community**



父親ネットワークが地域社会にもたらすもの

- ①地域の安全性が高まる
- ②子どもの居場所が増える
- ③子どもたちが多様な父性に接し社会性や職業感が育つ
- ④持続可能な共生社会が構築される
- ⑤コミュニティが活性化し、社会資本(資産価値)が高まる



パパたちの読み聞かせ活動が活発化



パパ's絵本プロジェクト 2003年結成！
約300回、のべ7000人の子どもたちと絵本で
楽しんできた。



全国で絵本読み聞かせをするパパサークルが続出！
域メンパパが急増！！



FJQ



おおいたパパくらぶ



ねりパパ

祖父支援～イクジイプロジェクトとは？

- 一緒に次世代育成～父親(パパ)と祖父(ジイ)の融合と協働。
- ▶ 中高年男性のエンパワーメント～定年は社会的リタイアではない！
- ▶ **イクジイは地域・社会貢献のキーパーソン**





【イクジイ・ロールモデル①】

石田正邦(まさくに)さん(63歳)

昭和22年生まれ。NPO法人市民ネット川口理事長、NPO法人孫育てニッポン理事、さいたま市放課後チャレンジスクール「針ヶ谷ふれあい子ども教室」副代表ほかさまざまな市民活動を行う。2孫(4歳男の子、2歳女の子)のイクジイ。

- ・国と県からもらった奨学金で学び、公立小学校の教員となる。「税金で食べつないできた、国のお金で生かされてきた」という思いが常にある。
- ・退職後はお金儲けでなく人が喜ぶことをしたいという思いで、現在の活動に従事。
- ・「日帰り農業体験in埼玉」など、田んぼの土地を借りての子どもたちと農業体験などの活動を展開。川口市の教育委員会がバックアップ。
- ・4年前に、埼玉大学経済学部社会環境設計学科に入学。日本の子育て支援の課題について学ぶ。
- ・ひとこと⇒「自分の家庭や自分の孫だけでなく、自分の外の世界に興味関心を持ちましょう。趣味を広げることが、イクジイとしての活動にも役立ちます」



【イクジイ・ロールモデル②】

渡辺恵司(わたなべ けいじ)さん(71歳)

昭和15年生まれ。こうとう親子センター代表理事ほか。紙器(紙箱)製造会社の代表として仕事も現役。NGO活動でカンボジア支援にも毎年赴く。8孫のイクジイ。

・40歳すぎた頃、カンボジアの新聞に掲載された、小さな子が道を歩いている1枚の写真に心を揺さぶられる。「何とかしたい!」と思う。

・54歳で大学に入学。58歳のときにカンボジアへ。それから13年間、毎年1~2回カンボジアに行っている。

・カンボジアの子どもたちはみんな目が輝いている。でも、「日本の子どもたちは、目が輝いていない」。

・日本の児童養護施設見学。今では虐待を受けた子どもたちがほとんどという事実ショック。子育て支援の道に入る。

・今でも毎朝7:45に学校の前で、登校班の子どもたちの誘導。

▶「ひとこと⇒「子どもたちと触れ合うこと。イクジイたちが次世代育成を担っているのだという意識を、もっと多くの人に持ってほしい」



【イクジイ・ロールモデル③】

岡村紀男(のりお)さん(70歳)

昭和16年生まれ。ほっとスペース「じいちゃんち」代表。子育ての経験はないが、「じいちゃんち」の活動を通して、地域の孫たちに愛情を注ぐイクジイ。交通安全週間の年2回の奉仕と、月に1度の自宅での聖書研究会も約30年間実施している。

- ・若いころは仕事人生で、朝は6時半に自宅を出て夜9時過ぎに帰ってくる生活。四十数年、会社と家との行き来しかなかった。67歳で退職、地域の関わりもほとんどなし。
- ・大田区社会教育課が開いた「地域と教育」講座を受講。子育て支援の道へ。親子がほっとできるスペースを作りたいと思い、仲間とグループを立ち上げ、わが家のリビングルームを使っの「じいちゃんち」という子育てひろばをスタート。
- ・「じいちゃんち」に遊びに来てくれる赤ちゃんが成長していく姿を見るのが喜びに。
- ・ひとこと⇒子育ては、将来を担う人を育てること。活動スペースだって何とかすればあるはずですから、志さえあれば、誰でもできると思います。現役から一線を引いた人は、どんどんやってみて欲しいですね。



男性のための生活自立支援セミナー 平成育児事情～男性の力を子育て・地域へ～絵本読み語り講座～



グランパ雲南★結成！
現在、鋭意活動中。



3.11東日本大震災を経て、日本人は・・・

「物より心の豊かさに重きを置きたい」
と、考えている人は64%

1972年に調査を始めて以来、過去最高。

「**地域との絆や家族との関係**」を重視する傾向がさらに強まった。

ワークライフ・バランスの必要性



父親が変われば、
家庭が変わる
地域が変わる、
企業が変わる、
そして、社会が変わる。



Fathering Japan

